

国立教育政策研究所教育課程研究指定校事業研究協議会

思考力，判断力，表現力等を育成し， 主体的，創造的な学習を実現する 指導方法とその評価

—「音楽と自分との関わり」に着目した音楽科の授業の在り方—
(二年次)

金沢大学附属中学校 音楽科 鏡千佳子

1. 研究主題設定に当たって

(1) 一年次の研究内容及び成果と課題

(2) 二年次の研究内容

2. 具体的な取組

3. 成果と課題

1. 研究主題設定に当たって

＜本校の生徒の現状＞

新しいことを学んだり
知ったりすることに
意欲的！



- 生活や社会とどのような関わりがあるの？
- 自分とどのような関わりがあるの？



授業で学んだ内容が、生活や社会、自分にとって意味のある存在であることに気付くことができる授業を行う必要がある

1. 研究主題設定に当たって

＜研究主題＞

思考力, 判断力, 表現力等を育成し,
主体的, 創造的な学習を実現する指導方法とその評価
ー「音楽と自分との関わり」に着目した音楽科の授業の在り方ー

＜一年次の研究内容＞

- ・授業で学んだ内容が, 生徒自身のその後の学習や生活とどのように関わり, どのような意味を持つのかを考える授業の開発
- ・授業のねらいが達成できているかを的確に見取る評価方法の開発

1(1)一年次の研究内容及び成果と課題

《一年次の研究内容～「花の街」の実践～》

- ・「心の歌」を歌い継ごう
- ・教材名「花の街」 江間章子/作詞 團伊玖磨/作曲 (副教材)「花」 武島羽衣/作詞 滝廉太郎/作曲
- ・新学習指導要領との関連
 - A表現:ア, イ(ア), ウ(ア)
 - [共通事項]ア
- ・生徒の思考・判断のよりどころとなる音楽を形づくっている要素
 - 「音色」「旋律」
- ・授業内容
 - 一時目:「花」「花の街」のそれぞれの特徴をつかみ, 歌う。
 - 二時目:曲に込められた思いを汲み取り, ふさわしい歌唱表現を考え, 歌う。

※「心の歌」とは, 新学習指導要領で定められている共通教材のことを指しており, 教科書(教育芸術社)では「心の歌」として取り扱われている。

1(1)一年次の研究内容及び成果と課題

《一年次の成果と課題～「花の街」の実践～》

- 授業で学んだ内容が、生徒自身のその後の学習や生活とどのように関わり、どのような意味や価値を持つのかを考える授業実践を行うことができた。
- 「学校で共通教材を学ぶ必要がある、どちらかといえば必要である」と考えている生徒が、授業実践後、増えた。（実践前86.7%, 実践後92.7%）

- 歌唱表現の授業としては不十分な面が見られた。
- 評価の工夫が不十分であった。

1(2)二年次の研究内容

＜研究主題＞

思考力, 判断力, 表現力等を育成し,
主体的, 創造的な学習を実現する指導方法とその評価
ー「音楽と自分との関わり」に着目した音楽科の授業の在り方ー

＜二年次の研究内容＞

- ・授業で学んだ内容が, 生徒自身のその後の学習や生活とどのように関わり, どのような意味や価値を持つのかを考えることができる汎用的な授業モデルの開発
- ・「表現」領域と「鑑賞」領域の関連を図った授業を行い, それぞれの授業のねらいが達成できているかを的確かつ簡易に見取る評価方法の開発

2. 具体的な取組

題 材 名：音楽の要素と曲想との関わりを感じ取り、絵に合う音楽をつくろう

教 材：組曲「展覧会の絵」 ムソルグスキー作曲/ラヴェル編曲

対象学年：第3学年

学習指導要領との関連：A表現(創作)ア, イ

B鑑賞ア, イ

新学習指導要領との関連：A表現(創作)ア, イ(イ), ウ

B鑑賞 ア(ア), イ(イ)

〔共通事項〕ア

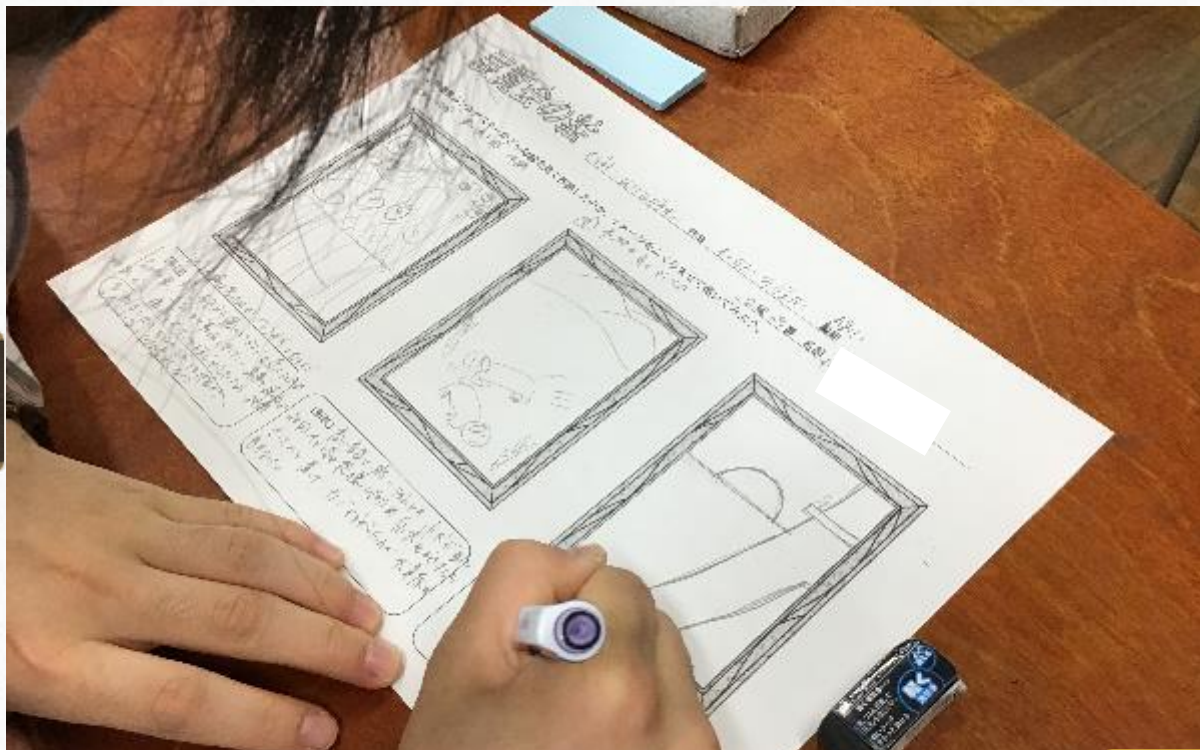
生徒の思考・判断のよりどころとなる音楽を形づくっている要素

「音色」「リズム」「速度」「調」

2. 具体的な取組(題材計画)

次	時	学習内容・ねらい(■) 主な活動等(丸数字)	評価規準・手立て(○) 指導上の留意点(・)
1	1 鑑賞	■ どんな絵を見て作曲したのか、音楽の特徴から考えよう ①10枚の絵をもとにつくられた曲の中から3曲を聴き、それぞれの曲の特徴をつかむ。 また、どんな絵を見てつくられたのか想像する。 ②3曲の中から気に入った曲を1曲選び、特徴をまとめる。	○組曲「展覧会の絵」の音色、リズム、速度、強弱、調と曲想とのかかわりと、その背景となる歴史との関連に関心を持ち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。 【音楽への関心・意欲・態度】
	2 鑑賞	■ ムソルグスキーの気持ちの変化を感じ取ろう ①4つのプロムナードを聴き比べ、作曲者の心情の変化を感じ取る。 ②ムソルグスキーがどのような気持ちで友達の展覧会を見て歩き、作曲したのかを考えながら、前半部分を通して聴く。	○組曲「展覧会の絵」を形づくっている要素(音色、リズム、速度、強弱、構造、調)を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ受しながら、音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解して、解釈したり価値を考えたりし、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。 【鑑賞の能力】
2	3 創作	■ 自分の作品を表す音楽をつくろう ①前時で学習した内容を踏まえ、タブレット端末で「SONG MAKER」を使って、簡単な旋律をつくり、音色やリズム、速度、調を変化させ、雰囲気を変えられることを体感させる。 ②家庭分野で作成した紙芝居に短い旋律をつくる。	○音色、リズム、速度、強弱、調を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ受しながら、音楽で表現したいイメージをもち、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。 【音楽表現の創意工夫】
	4 創作	■ 自分の作品を表す音楽をつくろう ①前時に作成した旋律と家庭科で作った絵本を鑑賞し、紙芝居のイメージに合うよう工夫する。 ②お互いの作品を鑑賞し合う。 ③よりよい音楽になるよう最終調整する。	○音素材の特徴、全体のまとまりを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて音楽をつくっている。 【音楽表現の技能】

2. 具体的な取組: 1 時目 (鑑賞)

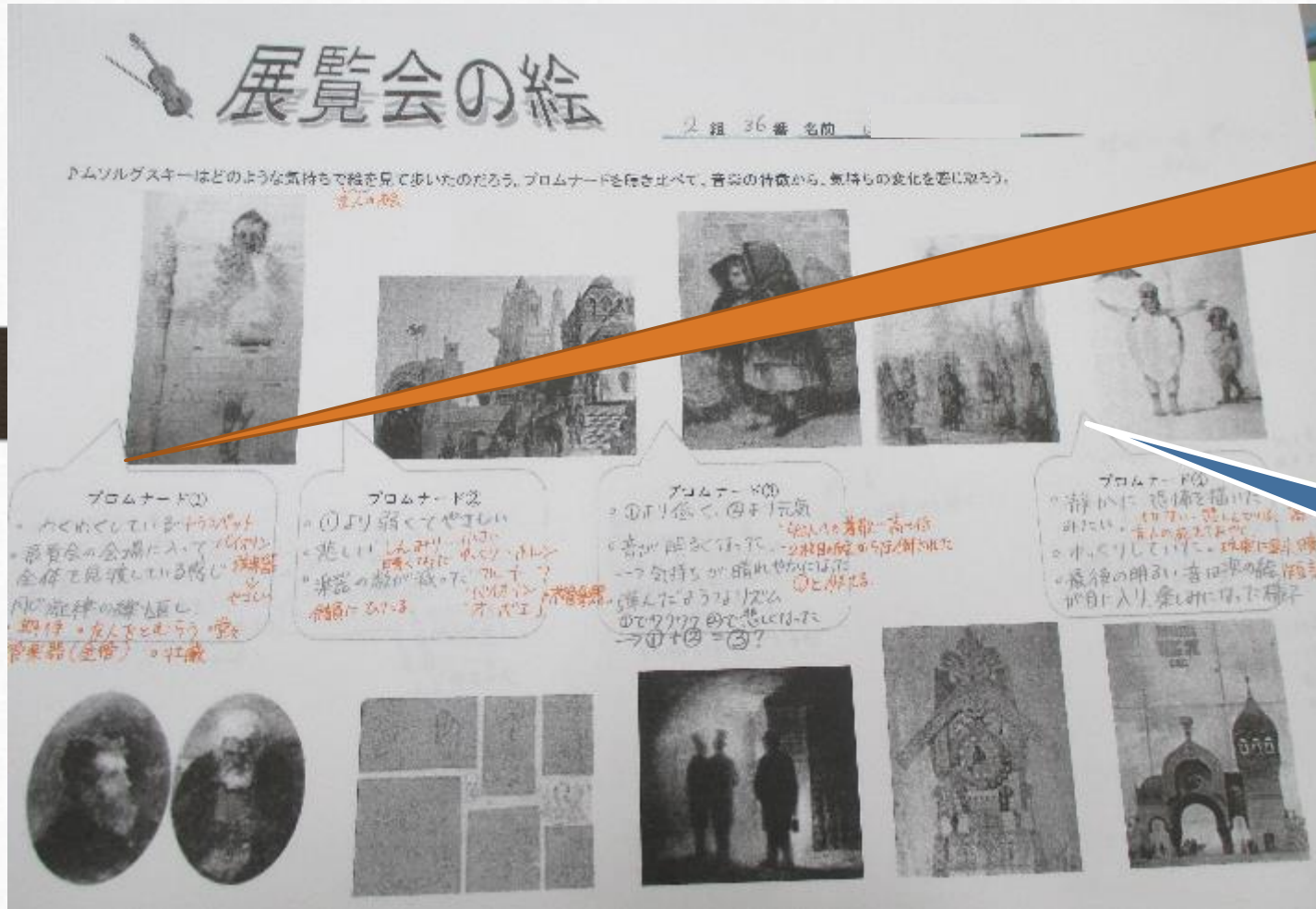


「グノーム」: 低い音が多く使われているので、怖い暗い感じの絵だと思う



「卵の殻を…」: 高くて細かいリズムから、小動物がちょこまか走っているような絵じゃないかな

2. 具体的な取組: 2時目(鑑賞)



最初のプロムナード
トランペットや弦楽器の音が華々しくて、
友達の遺作展に行くのを楽しみにして
いる感じ。

ビドロの後のプロムナード
短調になったことで、友達が亡くなり悲
しんでいる感じが伝わってくる。寂しい
気持ち。

2. 具体的な取組：2時目（鑑賞）

[illegible]

ムソルグスキーはなぜこの「展覧会の絵」を作曲したのでしょうか。そしてどんな思いで作曲したのでしょうか。あなたの考えを書きましょう。

友人の死をとりい 絵を見て感動したことなどを伝えるために「展覧会の絵」を作曲したのだと思う。最初は絵に期待したり、楽しんで絵を鑑賞していることが「前奏」から伝わってくる。しかし、先に進むにつれて友人のことを思い出し、悲しくなる。これは絵を見ている場面や音楽だけではなく「前奏」からも想像することができた。楽器の種類や短調など、調の変化によってムソルグスキーの悲しさがよく分かった。

「展覧会の絵」は、単純な絵の感想だけでなく、ハルトマンについてムソルグスキーが思ったこと、考えたことまで表された曲であることがよくわかった。とても共感できた。

よい

よい

2. 具体的な取組：3時目（創作）

- ・技術・家庭科（家庭分野）で作成した紙芝居に合う音楽を創作
- ・紙芝居の対象年齢は各グループで決めている（3歳～5歳）

- 音楽制作アプリを使って、音色やリズム，速度，調を変化させ，雰囲気を変えられることを体感させる
- 一人一台タブレット端末を使い、自分の担当する場面の音楽を創作する
- 鑑賞で学んだことを生かして創作する

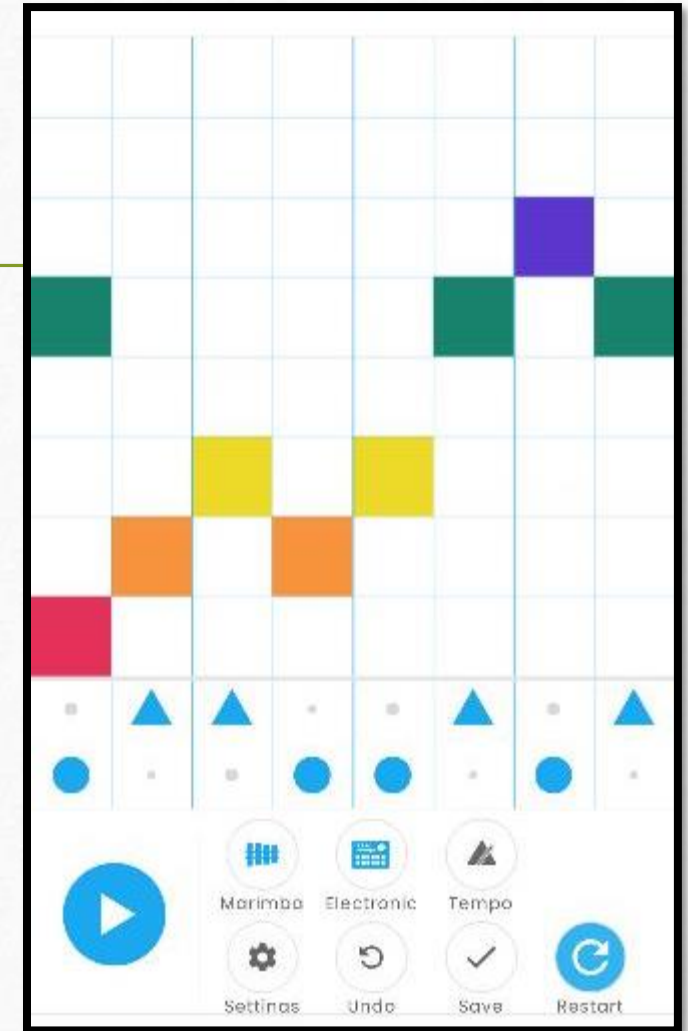


2. 具体的な取組: 3時目(創作)

- ・音色
- ・速度
- ・リズム
- ・調
- ・拍子



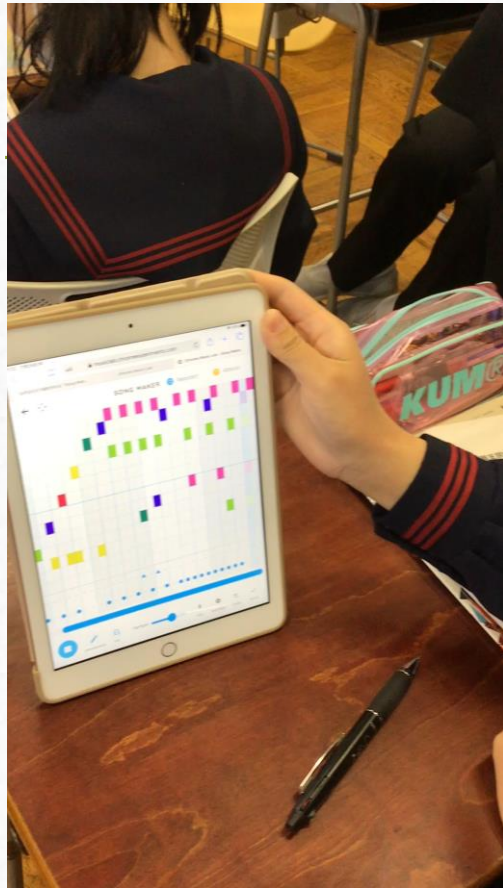
これらの変化が可能



2. 具体的な取組: 3時目(創作)



2. 具体的な取組: 4時目(創作)



気分が上がるようにするために、
音をだんだん高くしました。

速度がゆっくりだと悲しい感じになるので、
速めにしました。

2. 具体的な取組: 4時目(創作)



蛾の羽は4枚あって、汚いから(イメージ)
ガサガサした音にしました。

蛾は羽を回す速度が速いから、速くしました。

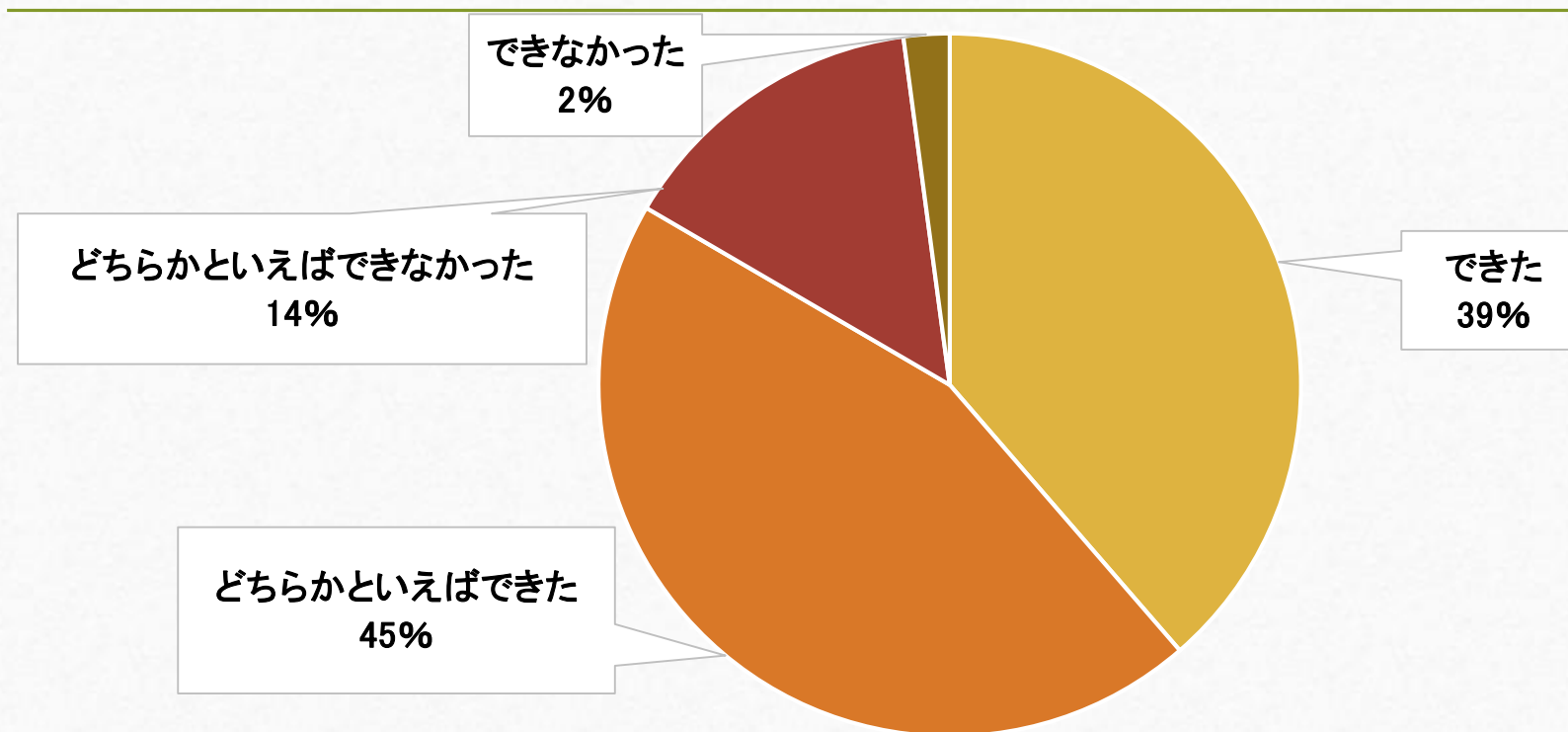
2. 具体的な取組:4時目(創作)



- ・楽しくて弾むような感じを出すために、ピアノを
使いました(楽器, 音色の選択)
- ・速度を速くしました

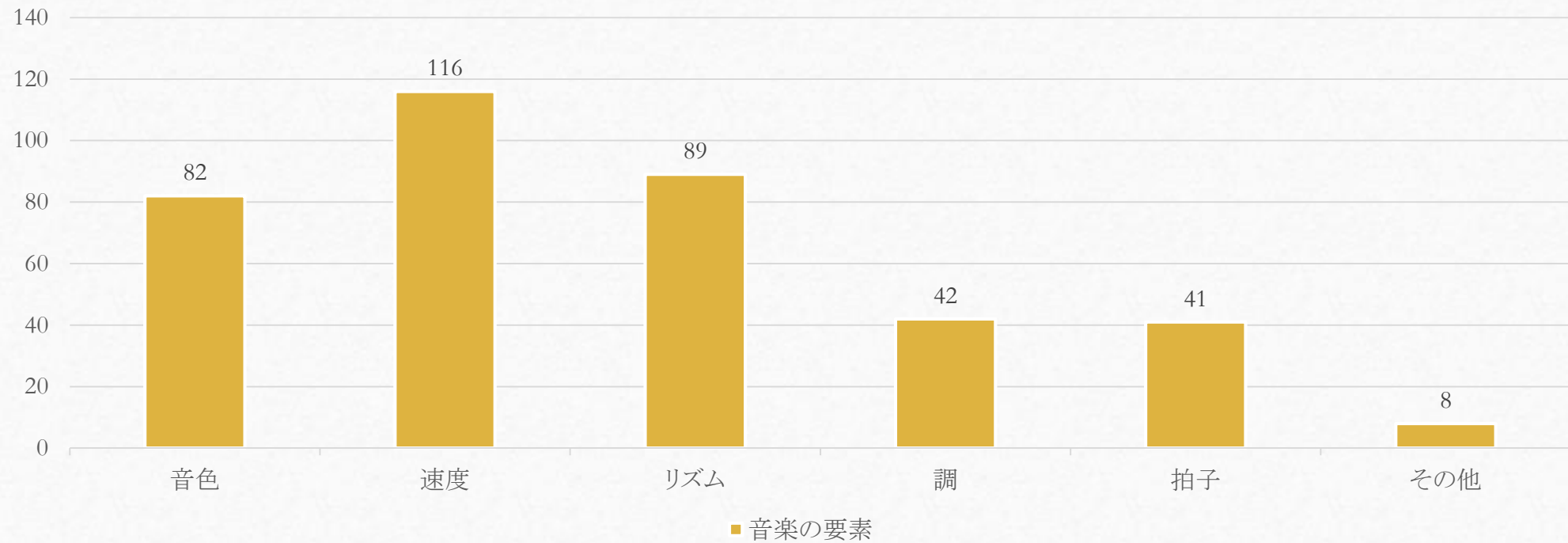
- ・寂しくて悲しい暗い感じを出すために、速度を遅く
しました
- ・音を一音ずつにして、一人ぼっちの様子を表しました
- ・夜の闇の深さを表すために最初は3音重ねました

3. 成果と課題（授業後アンケートより）



3. 成果と課題（授業後アンケートより）

創作するにあたり、工夫したことはどれですか（複数回答可）



3. 成果と課題（創作の評価について）

授業中に生徒に聞きながら、
表にチェックしていきます

番号	名前	音色	速度	リズム	調	拍子	その他
3101							
3102							
3103							
3104							
3105							
3106							

・音楽表現の創意工夫
・音楽表現の技能

授業時間内に聞けなかった生徒の分
は、ワークシートと、端末に保存した作
品とを合わせてチェックします

授業中に評価することで…

- ・生徒の思考の過程を見取ることができる
- ・後で全員分の端末をチェックする必要がなくなる

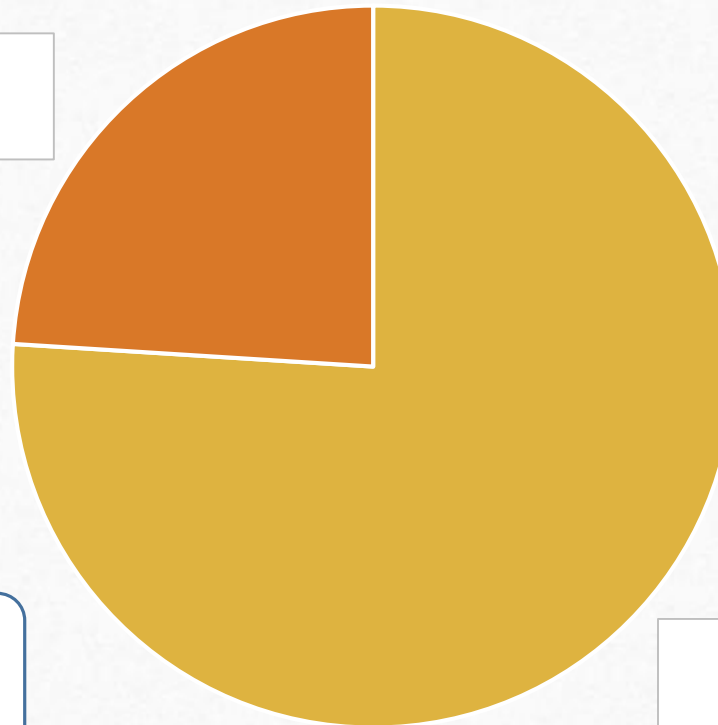
3. 成果と課題（授業後アンケートより）

端末機器を用いての創作は、他の楽器を用いての創作に比べてやりやすかったですか

やりにくかった
24%

- ・操作が難しかった
- ・臨時記号もつけたかった
- ・音が鳴らなくなったりすることがある
- ・選べる音色が少ない
- ・レガートができない
- ・設定の言語が英語でわかりにくかった

やりにくかったと答えた生徒のほとんどが
ピアノなど自分で楽器を演奏できる生徒



やりやすかった
76%

- ・操作简单
- ・楽器が弾けなくても音楽が作れる
- ・作った音楽が繰り返し流れてくれるので、修正箇所を見つけやすい
- ・タップするだけで、音や速さを変えることができる
- ・すぐに様々な楽器の音に変えることができる
- ・自分が使えない楽器の音で出すことができる
- ・保存ができる
- ・一人では出せない音(たくさんの音)が端末なら出せる
- ・失敗しても作り直しやすい
- ・音を視覚的にとらえることができてわかりやすかった

3. 成果と課題(授業後アンケートより)

創作をするのは天の恵みだったが、創作の面白さに気がついて楽しむこと
ができて良かった。音色やリズムを少し変えたり、曲調や雰囲気を変
えて面白がった。

場面の雰囲気に合わせて音楽のリズムや音色を変化させることで、よりその
雰囲気に近い音楽を創作することができると分かった。

音楽のあり/なしによってものの感じ方が大きく違ってくると思った。

- ・音楽の要素の変化で、気持ちや雰囲気が変わることのおもしろさを感じていることが見える。

- ・音楽の重要性に気づいた記述も見られる。

3. 成果と課題(授業後アンケートより)

音楽をつくることが、こんなに楽しく思っていたからため、とても楽しかった。
使う楽器や速度が、ちがうだけで、全くちがう印象になることに気が
ついた。今日の授業を通して、音楽の楽しみ方が変わったように思う。
好きなポップスやクラシックをきくときは、どんな工夫がされているのか、
いじってみようと思う。

ふ段、次に1つと多い音楽を自分たちで作り、作曲の難しさや
アーティストの方々の努力とかが分かった。これから音楽をきくときは、今までより一層
に「いいな」と思いつながる聞くことになると思う。

- ・自分の身近な生活に関わる音楽に対する意識が変わったことが見える。

- ・自分で創作を体験したことにより、普段何気なく聴いている音楽をつくった作曲者のすごさが改めてわかったという生徒が多くいた。

3. 成果と課題(授業後アンケートより)

自分作りたい音楽ができていくのが、とても楽しかった。
みんなが様々な音楽を作っていて、性格の違いを感じた。
幾度か間違いながら、作曲家の気分を味わえた。

新しい曲の対象年齢にあわせて、テンポを変えたり、その時の人の
気持ちで音楽をつくるのが、とても楽しかった。 音だけで
雰囲気が出たり、ある程度の感情表現ができてすごいと思った。

純粋に作曲が楽し
かったという生徒
の記述も多く見ら
れた

3. 成果と課題(授業後アンケートより)

テーマに合った音楽の制作はあまりしたことなかったのが難しかったけど試考錯誤して近づけていくのが楽しかったです。「展覧会の絵」で曲の印象について学んだ後だったのでよりそういうものを考えようことができました。

音楽をつくるときは、実際に、どんな音色や速度なのかを体験しながらでないと作りにくいと分かった。自分が作って見た音楽の何をつまじたら、より新発見の音楽に近づけるかを考えさせられたと思う。難しかったし、大変だったけど、作って、共有したり、つなげてみたりできただけで、とても楽しかった。

展覧会の絵で学んだ、「絵に合う音楽」をほかの絵で試してみたい。

鑑賞の学習を生かして創作しようとした、という記述も見られた

3. 成果と課題

☆授業で学んだ内容が、生徒自身のその後の学習や生活とどのように関わり、
どのような意味や価値を持つのかを考えることができる汎用的な授業モデルの開発 について

- 目的意識(紙芝居に合う音楽)と相手意識(幼稚園児)を具体的に設定したことで、授業で学んでいることと実社会とのつながりを感じることができたのではないか
- 端末機器を用いて創作を行ったことにより、自分でも簡単に音楽がつくれるということに気づき、「次はこんな音楽をつくってみたい」という意欲がわいた記述が多く見られた。
また、創作の難しさから、作曲家のすごさについて、改めて実感している生徒も多くいた。



3. 成果と課題

☆「表現」領域と「鑑賞」領域の関連を図った授業を行い、それぞれの授業のねらいが達成できているかを的確かつ簡易に見取る評価方法の開発 について

○「表現」領域と「鑑賞」領域の関連を図った授業を行うことができた。

○それぞれの授業のねらいが達成できているかを見取る評価方法については、

- ・鑑賞→特に新たな評価方法を提案することができなかった
- ・創作→評価表を用いて授業中に行う簡易な方法に取り組んだ
 - ・生徒の思考の過程を見取ることができる
 - ・後で全員分の端末をチェックする必要がなくなる

●それぞれの授業のねらいが達成できているか、だけではなく、題材全体のねらいについても、的確かつ簡易に見取る評価方法を研究すべきであった

3. 成果と課題

